審議会等の会議結果報告

１．会　　議　　名	第 13 回　松阪市政推進会議
２．開 催 日 時	平成 30 年 10 月 30 日（火）午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分
３．開 催 場 所	松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
４．出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、梅村光久委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：岡山慶子委員、佐藤祐司委員、三井嬉子委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長
５．公開及び非公開	公開
６．傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
７．担　　当	松阪市企画振興部　経営企画課 TEL　0598－53－4319 FAX　0598－22－1377 e-mail　kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・事項、議事録は別紙のとおり

第 13 回 松阪市政推進会議　議事録

１．日　時　　平成 30 年 10 月 30 日（火）　午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分
２．場　所　　松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
３．出席者　　村林守委員、梅村光久委員、酒井由美委員、髙島信彦委員、中川昇委員、西岡裕子委員、平岡直人委員、松浦信男委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員
※欠席者　　岡山慶子委員、佐藤祐司委員、三井嬉子委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上企画振興部経営企画課政策経営係長

１　市長あいさつ
お忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。
前回からお話しさせていただいていますが、いかに PR するかという課題がある。地元紙にも大きく掲載されたが、総合計画策定時に調査したことと同様に、今回も「松阪市を観光地と思うか」と市民の意見を聞いてみた。私自身は、3 年前と比べると観光客は増えたと感じており、特に、殿町周辺には歩いている観光客をよく見かける。だが、市民から見ると観光地だと思っている人は減っている。自分たちが観光地だと思っていなければ、おもてなしの心を持てないのではないか。市民の皆さんが松阪市のことを知っていなければ観光客をご案内できない。いかにして PR していくのかが課題であると痛感した。今回の市民意識調査でも、様々な調査を実施した。本日は、調査結果についてご意見をいただきたい。よろしくお願いいたします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○　会議の公開・非公開の決定
会長）
お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本日が通算 13 回目の会議となります。毎回、有意義なご意見をいただいておりますが、本日もどうぞよろしくお願いいたします。
では協議を始めます前に、本日の会議の公開・非公開を決定する必要がございますが、本日の議題は、事項書にあるとおり「市民意識調査中間報告（速報値）について」であります。その結果を踏まえて、市民意識から見える市政の展開についてご意見をいただきたいと思います。

本日の会議については、個人に関する情報などの非公開情報のご発言はお控えいただくことをお願いしまして、公開させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（異議なし）

会長）
では、本日も公開で進めてまいります。

２　協議事項
１）市民意識調査中間報告（速報値）について

会長）
では、事項書に沿って進めてまいります。
事項書２の協議事項　１）市民意識調査中間報告（速報値）について、竹上市長から説明をいただきます。

（市長より資料の説明）

会長）
ありがとうございました。市長より、市民意識調査の中間結果についてご報告いただきました。
興味深い資料ではありますが、一つ一つの項目に時間を割くわけにもいきませんので、気が付いた項目について委員の皆さんからご意見を頂戴できればと思います。

委員）
停電の場合、行政チャンネルは映るのか。

市長）
停電すればテレビは映らない。その場合はラジオになる。非常用の持ち出し袋には、懐中電灯やラジオなどは乾電池で動くものを入れておいてほしいとお願いしている。

委員）
行政ラジオはあるのか。なければ作るのか。

市長）
行政ラジオはやっていない。作る予定もない。

委員）
　松阪のケーブルテレビでは、どんな内容の放送をしているのか。

市長）
　30 分番組を何回も繰り返し放送している。今は文字放送をやめる方向で取り組んでいる。市からのお知らせやその週のトピックスを、火曜日と金曜日で内容を入れ替えて放送している。現在は、地域のイベントなどの案内も文字ではなく、映像で放送しようと考えている。

委員）
　災害時には、防災みえや市からのエリアメールなどで情報を取得している。FM 放送や災害アプリを立ち上げるコストなどを考える必要がある。
　2020 年には 5G の時代が来て通信速度が上がる。自分たちで取得する情報を選ぶ時代が来るだろう。市政の情報も端末で見る時代になり、そこに舵を切る自治体が増えるのではないか。安く早く個人に情報を運べる時代になると思う。

委員）
　市長の SNS の手ごたえをお聞きしたい。
　それと、広報を読んでいる人は多いのに、手話条例が周知されていない。広報に手話条例のことは載っているはずである。広報を眺めているのか、把握して読んでいるのか調査が必要ではないか。

市長）
　フェイスブックとインスタグラムをやっている。それなりに反応はあるが、どうしても SNS は個人対個人になる。全市民が対象にはならない。ホームページに市長の部屋があるが、そこを見ている人も少ない。ホームページを見てくれている人は減っていると思う。
　これからは、行政アプリでプッシュ型の情報提供をしていきたいと考えている。広報も、興味があるところは見てくれているが、わざわざ見にきていただける時代ではなくなってきている
　9 月から子育てアプリを導入した。昔はプッシュ型のアプリを開始するのに億単位の予算が必要であったが、今回は民間のアプリを活用し、100 万円程度でスタートできた。これが一つの出発点だと思っている。

委員）
　調査票はエリアを分けて送っているのか。偏っていないのか。

事務局）
　調査対象者 3,000 人は、旧市町別、年代別、男女別に人口比率で案分し送っている。

委員）
　コミュニティバスの企業広告はどこに収益が入るのか。

市長）
　収益はそれぞれの事業主体に入る。
　専門家に鈴の音バスに乗ってもらった結果、1 周が９０分では長すぎると指摘された。１周１時間以内で周れるように、来年４月から３路線目を走らせることを予定している。公共交通は 1 路線で約 2,000 万円かかる。受益者負担を見直す質問をさせていただいたところ、前回と同様に 200 円でも良いという結果が出た。最終的には公共交通の委員会へ諮り決定していきたい。

委員）
　1 周 90 分が長いのか。

市長）
　次に来るまでの時間が長いということである。

会長）
　発車時刻が不定期であり循環バスとしては致命的である。「毎時○○分に発車」であれば乗車する方もわかりやすくなる。

委員）
　目的は福祉バスなのか。

市長）
　鈴の音バスに限ると、通勤・通学に利用していただいている。もちろん高齢者も利用しているが、地域のコミュニティバスと鈴の音バスの違いは、現役世代の乗車率が非常に高いことである。

委員）
　ほとんどが公費負担で運行しているのか。

市長）
　昔は協賛金をそれなりにいただいていたが、協賛金が減っていき公費負担が増えてきている状況にある。もともと地域バスは、利用者が 3 分の 1、地域が 3 分の 1、公費が 3 分の 1 で運行しようということであったが、公費負担の率が増えてきている。公費負担を抑える方法を考えていかないと、継続できなくなる。どこかで受益者の負担を見直す必要があると考えている。

委員）
　高齢者は安くし、現役世代に負担してもらわないと成り立たなくなるのではないか。

委員）
　例えば、島根県松江市ではループバスを運行し、観光案内をしている。バスの中で 90 分間の観光案内をしてはどうか。観光客誘致に使えるのではないか。

委員）
　高齢者が通院に使ってもらえる路線を作り、弱者に喜ばれるバスにしてほしい。

委員）
　バスに乗ってもらえる仕掛けが必要ではないか。
　観光や商業の部分でのコミュニティバスにチャレンジしてほしい。

市長）
　鈴の音バスの乗車率は非常にいいが、地域のコミュニティバスは乗ってもらっていない。タクシーのように個人を運ぶニーズが合うのだろうと思っている。先ほどの意見にもあったが、病院に行くのにコミュニティバスを利用したいが、予約診療なので診療時間が決まっているため、ちょうどいい時間のバスがないから乗らない。税の投入の仕方としては、デマンド交通を考えていくほうが良いと思っている。車両交通法の制約もあるが、地域での運行を考えていきたい。

委員）
　兵庫県養父市では、地域で運行を行っている。タクシー業界を圧迫することになるので、共存できる方法を考えればコミュニティ交通がうまくいくと思う。
　多気町はオンデマンド型のコミュニティ交通をやっている。デマンド型の民間タクシーを普及させることができれば、松阪市は注目されると思う。

市長）
　料金を取らなければ法律に抵触しない。ここをクリアしていければ可能になると思う。市としても援助は可能だと思うし、空気を運ぶより良いと思う。

会長）
　鈴の音バスに乗った感想だが、お買い物バスの印象がある。狙いは買い物客だという印象がある。

委員）
　いずれにしても公費負担である以上、むやみに増やすことはできない。ターゲットは、社会的弱者と観光客に絞るべきである。公費である以上、目的を絞る必要があると思う。

委員）
　通院は月に１回なので予定がたつ。月に１回通院する人がその地域で数人まとまれば、その時にバスが行くだけで良くなり、非常に乗車率の高いバスになるのと同時に、家庭の負担も減らせる良い方法になるのではないか。

委員）
　マイカーを持っていないと公共交通が必要になる。鈴の音バスの乗客を見ると、通院に使っている方も多いが、外国人も多く乗っている。ニーズに合った時間設定が必要で、ニーズ調査をしてみてはどうか。必要なのはシェアカーで、有償でもいいので、簡単に乗せてもらえるような仕組みがあると便利になる。
　鈴の音バスの車内で、観光用にイベントなどをもっと宣伝してもいいのではないか。

市長）
　鈴の音バスは、民間バスの経路を走れない。民業を圧迫できない。
　もともとは、商工会議所のお買い物バスが発端である。それを市が引き継いだ形で、買い物が便利なルートになっている。協賛金を幅広く徴収すればよかったと反省している。

委員）
　話は変わるが、住民協議会と自治会との今の状況はどうなのか。

市長）
　そろそろまとめようという段階で、案を出したところである。年内にそれぞれでご協議いただき、意見を集約してもらい、年明けには再度協議する予定である。

委員）
　このアンケートの調査結果をどう生かしていくのか。

市長）
　防災対策で言うと、いまだに備蓄品を準備していただいていない状況にあるので、重点的に PR していくことを検討している。
　住民協議会については、アンケートを取ることも重要な PR の方法で、一本化についても賛成が多い状況であることがわかった。
　マラソンも、コースを聞くことによって、市民ニーズの把握につながっているし、バスの運賃についても、反発を生まないためにも、市民意識を聞き取ることが大切だと思う。
　アンケート調査は政策決定の大切なツールだと考えている。

委員）
　この調査結果を基に、庁内から意見提案を出させるのはどうか。それをこの会で査定して表彰するのはどうか。

市長）
　職員提案制度があり、その提案を予算化したものもある。例えば、東京出張が安く行ける EX カードを導入したことや、庁舎 1 階のお茶のサービスも職員からの提案である。

委員）
　フルマラソンの開催は決定したのか。どこの自治体でもやっていることで、わざわざ松阪市でやる必要があるのか。松阪ならではの催しがいいのではないか。特徴のあるもので松阪を PR したほうが良いと思う。

委員）
　三重県では初のフルマラソンである。初めにやることが大事だと思う。

委員）
　フルマラソンでもいいが、形態を変えてお金を落としてもらえるような仕組みにしてはどうか。魚町・本町・殿町にはお金を落としてもらえる仕組みがない。お金を落としていく仕組みを考えてほしい。

市長）
　フルマラソンへ参加していただく人のほとんどは、おもてなしを楽しみに参加してもらっている。

委員）
　市民病院への負担を質問した意図は何か。

市長）
　医療体制について、いくつか質問した中の一つであるが、今年の決算で 1 億 8 千万円の黒字になった。聞こえはいいが、9 億円の公費負担をしての黒字である。自治体病院では優等生であるが、民間病院とは違い、税の投入があって成り立っている。そのことを市民に分かってもらうため質問した。

委員）
　黒字の問題と 9 億円の問題は別問題で、法定繰入という制度に基づき負担している。全国どこの自治体も法定繰入を行っている。黒字が出たからといって、その分を償還してしまうと全額返さないといけなくなる。

委員）
　市民病院は、多気町や大台町からも受診している方がいるので、応分の負担をしてもらえないのか。財政を圧迫するのであれば負担をもらったらどうか。

市長）
　松阪市立の病院であるので、負担金をもらうことはできはい。

委員）
　民間手法のような発想が市民も理解しやすいと思うが、自治体は税と交付金で賄っている以上、縛りがある。
　三病院のあり方の話もあるが、松阪市の福祉という将来ビジョンを見ながら検討してもらっている。

市長）
　市民病院は約 800 人の職員がいるが、45 人の医師にぶら下がっている。
　岐阜県土岐市の土岐市民病院は、名古屋市立大学から医師が来ていたが、名古屋市に医師を投入することに方針変更され、病院経営ができなくなり、厚生連と連携することで事なきを得たことがあった。医師がいることで医療が成り立つ業界である。医師がいなくなれば、明日からでも病院経営ができなくなる。

委員）
　防災について、要援護者の避難はどうなっているのか。

市長）
　風水害は、自主避難をしていただくことになるが、垂直避難をお願いしている。嵐の中、屋外に出ることは大変危険である。安全な場所に避難する場合は、嵐が来るまでに避難してもらうようにお願いしている。真夜中の避難は危険であり、外に出ないようにお願いしている。
　地震においては、要援護者の個人情報の扱いが難しく、大地震が起これば自治会に要援護者の情報を渡せることになっている。要援護者を把握する方法として、支援を必要とする人に手を挙げてもらう手挙げ方式と、支援が必要ない場合は手を挙げてもらう手下げ方式がある。松阪市の要援護者の対象者は約 18,000 人いるが、手を挙げた人は少ない。
　沿岸地域でワーキングを行っており、地域の避難計画を作っているところで、地域で要援護者を把握してもらうように取り組んでいる。来年度には地域避難計画を作成したい。

委員）
　避難所の認知度について、地域のスーパーに避難所は高校であるような張り紙がある。前の台風でも夜中に高校に避難した方がおり、開いていなかったようである。どのように周知すればよいのか。

市長）
　市が開放する避難所は小学校の体育館であるが、今年の夏は暑かったので図書室を解放した。中学校は二次避難所、高校は三次避難所になる。スーパーに貼ってある張り紙を確認し、対応させていただく。

会長）
　ほかにご意見はございませんでしょうか。
　活発なご意見をいただき、少し時間を過ぎてしまいましたが、本日の議論はここまでとさせていただきます。
　では、進行を事務局に戻します。

事務局）
　ありがとうございました。
　では最後に、次回の開催について、ご連絡させていただきます。
　次回は、1 月 29 日（火）　午後 3 時より開催させていただきます。
　あらためて、ご案内させていただきますので、ご予定をお願いいたします。
　以上をもちまして、第 13 回松阪市政推進会議を終了させていただきます。
　ありがとうございました。

　«午後 3 時 35 分　終了»